

平成 29 年 5 月 12 日

## 平成 29 年度西部支部総会 支部長就任挨拶

土井 康明

このたび、日本船舶海洋工学会西部支部長を務めることになりました広島大学大学院工学研究科輸送・環境システム専攻の土井康明です。どうぞ宜しくお願いいたします。

はじめに、前支部長、吉川先生ならびに運営に関わられた方々におかれましては、西部支部の事業運営、活性化に尽力をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。

ご承知のように、西部支部の特徴は、対象とする活動範囲の広いことが挙げられます。西部支部として活動しようとする際には、多くの時間的経済的負担が生じることとなります。西部支部は、このような困難にもかかわらず、総会、講演会のほかに、研究会、シンポジウムやセミナー、ワークショップ、特別講演会や見学会の開催とともにメールマガジンの発行などの様々な活動を継続的に展開し、会員同士の円滑な交流を推進してきました。西部支部の会員数は約 1,000 名であり、3 支部では一番少なく、日本船舶海洋工学会会員総数の 24% であります。これを人口比で見ると、少し事情が異なります。日本の総人口に占める西部支部地区の人口比が 17% であることを考慮すると、人口の割に会員数は多いことになるわけで、これまでの先輩諸氏のご尽力に敬意を表したいと思えます。

西部支部の目的は、「支部会員の相互の協力により、地域の学会活動を主体性を持って行うことにより、船舶及び海洋工学に関する学術、技術の進歩発展と教育への貢献を計ること」とされています。対象分野は、学会創立時の造船技術に加え、海洋、環境、エネルギーや物流といった幅広い基盤技術分野に展開してきましたが、今、さらに競争力のある技術が求められています。支部活動を通して、より良い技術、独創的な研究を学会として評価し、得られた成果を社会に還元することにより、この目的は達成されると思えます。と同時に、こうした活動は、ボランティアとして取り組まれている多くの会員の方々の上に成り立っていることを忘れてはなりません。西部支部会員が会員であることのメリットを享受できるよう、これまで以上に学会活動に楽しく元気良く参加いただけるような、より親しみやすくフレンドリーで身近な西部支部を目指したいと思えます。

今年は、学会の創立 120 周年を迎え、また三学協会が統合されてからは 12 年となる節目の年であります。これまでの先輩方のご尽力に敬意を表すとともに、築いて来られた良き伝統を守るだけでなく、時代の変化を先取りし、社会や会員のニーズに応えられる学会支部を目指し、会員各位のご意見に耳を傾けつつ、運営委員の皆様と共に西部支部の発展と円滑な運営に努めてまいります。末筆ではございますが、西部支部の会員の皆様のご支援をいただきながら、支部の発展に微力ながら尽くす所存ですので、どうぞよろしく御礼申し上げます。

